

順位	氏名（議席）	発言の要旨
19	井出 晴美（20）	<p>1. 高齢者肺炎球菌感染症定期予防接種の接種率向上について</p> <p>肺炎は、高齢者にとって重症化しやすく、入院や要介護化、さらに命に関わる大きなリスクも含む病気です。高齢化が進む中で、健康寿命の延伸や医療費抑制の観点から、予防医療の充実が求められています。高齢者肺炎球菌ワクチンは、肺炎の重症化予防に有効とされる一方で、制度内容が分かりにくい、対象年齢を知らない、副反応への不安、接種費用の負担感などにより、接種率向上が課題となっております。</p> <p>現在、市の制度では、原則65歳時のみを定期予防接種の対象としておりますが、65歳時には必要性を感じなかった、制度を知らず接種機会を逃した、体調や経済的事情で受けられなかったという方も少なくありません。</p> <p>そこで、以下、質問いたします。</p> <p>(1) 富士市における高齢者肺炎球菌感染症定期予防接種の接種状況（接種率、未接種の理由）について、どのように把握・分析しているか伺います。</p> <p>(2) (1)の結果を踏まえ、定期予防接種の通知が高齢者である対象者に分かりやすい内容となっているか。また、未接種者への再勧奨も含め、地域包括支援センター、町内会（区）、悠容クラブ、民生委員等と連携した周知・啓発を行っているか伺います。</p> <p>(3) 接種率向上にはかかりつけ医からの声かけが効果的と考えますが、医師会や医療機関との連携について市の考えを伺います。</p> <p>(4) 高齢者の場合、予約の負担や交通手段の問題などにより接種をためらう方もおります。集団接種や移動支援、通院時の接種勧奨など、定期予防接種を受けやすい環境づくりについて市の考えを伺います。</p> <p>(5) 肺炎予防は、高齢者本人だけでなく、家族の安心にもつながる重要な取組であり、高齢化が進む中、予防医療をより重視した施策推進が求められています。また、対象年齢に満たない方に対しても、将来の高齢者肺炎球菌感染症定期予防接種の接種率向上のため、65歳になったら接種という意識づけが重要と考えます。予防医療の推進について市の考えを伺います。</p>